

住民の安心とやんばるの森の自然環境の保全を求める意見書

上記の議案を提出する。

平成28年9月30日

提出者

12番 内山 さとこ

5番 山本 あつし

21番 本間 まさよ

24番 西園寺 みきこ

武蔵野市議会議長 深沢 達也 殿

住民の安心とやんばるの森の自然環境の保全を求める意見書

沖縄本島北部国頭村・東村に広がる森林地帯は、「やんばるの森」と呼ばれ、絶滅のおそれのあるヤンバルクイナやノグチゲラなど世界でも希少な動植物が生息する生物多様性の宝庫です。この9月に「やんばる国立公園」に指定され、ユネスコ自然遺産に登録を目指す「奄美・琉球」対象地域でもあります。

一方、やんばるの森には7,800ヘクタールにも及ぶ米軍北部訓練場が存在し、軍事目的（海兵隊ジャングル訓練センター）に使用されてきました。この北部訓練場を一部返還するかわりに、新たにヘリパッド（オスプレイ着陸帯）が建設されることになり、地元の東村高江住民は、生活の不安、自然環境の破壊を招くとして、長年にわたり建設工事に反対してきました。

ところが、今年7月の参議院選挙直後に、沖縄防衛局は工事に反対する住民の排除に乗り出しました。このため、沖縄県議会では7月21日に、北部訓練場ヘリパッド建設に反対する意見書を政府に提出しましたが、その翌日、警視庁を初めとする全国から動員された機動隊員により排除が強行されました。その後も、生活道路である県道の封鎖、立木の伐採など、警察権力の逸脱行為が続き、現地では抗議の声が上がっています。さらに、9月13日には、自衛隊ヘリコプターが工事用資機材を運搬するという異例の事態となっています。

東村高江は、住民150人ほどの小さな集落です。計画では、この集落を取り囲むように6つの新たなヘリパッドが建設されることになっており、一部返還されたとしても実質的な機能強化ではないかと言われています。すでに建設された2つのヘリパッドを使用したオスプレイの飛行により、住民の生活は脅かされ、夜間の騒音などに耐えかねた一部の世帯は避難しています。琉球新報が行ったアンケート調査では、住民の80%が建設に反対しており、賛成はゼロでした（8月3日付）。

日本国憲法に保障された基本的人権の尊重、国民主権に照らして、政府は、選挙結果、県議会意見書、住民調査でも明らかな、米軍基地・ヘリパッド建設反対の民意を尊重すべきです。市民とともに自治のまちづくりを実践してきた武蔵野市議会として、対話を通じて解決の道を探るべきと考えます。

よって、武蔵野市議会は、東村高江のヘリパッド建設について、地元自治体、住民の意見を尊重し、生活の安心と自然環境の保全を図るよう求めます。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出します。

平成28年 月 日

武蔵野市議会議長 深 沢 達 也

内閣総理大臣	}	あて
総務大臣		
防衛大臣		
外務大臣		
沖縄及び北方対策担当大臣		